

一般社団法人美馬森 Japan

馬との共生を通じて地域社会の課題解決に取り組む団体。企業向け研修を中心にプログラムを展開する。

プログラムの学びを体系化。 教育旅行向けに再構築して販路を拡大

課題

- 教育研修プログラムがターゲットに最適化されていない
- プログラムの学びを最大化する仕組みが整っていない

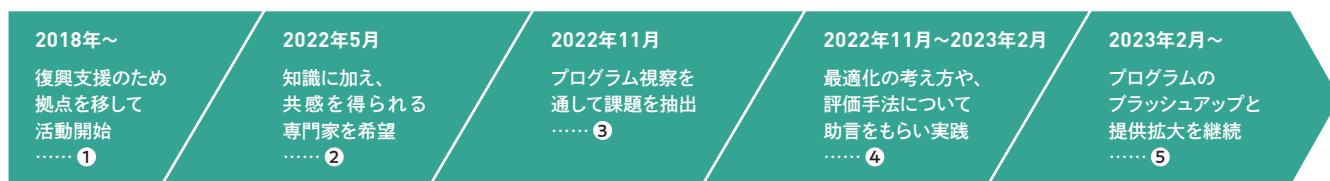
成果

- ターゲットに合わせて構成が可能になるよう、プログラムを体系化
- 旅マエ・ナカ・アトの概念を取り入れ、学びを最大化する仕組みを構築



これまでアプローチできていなかった学生向けに、教育研修プログラムを作成し提供を開始

支援事業実施の経緯



① 支援を受けた背景

プログラムを提供するための 新たなチャネル開発が必要

震災後、復興支援を行うため、岩手県盛岡市から宮城県東松島市に拠点を移し、馬との非言語コミュニケーションや関係構築について体験できる企業研修を実施している。このプログラムを、教育旅行など異なる世代にも届けていきたいと考えていたが、教育現場との接点をどうつくれば良いか、学生にとってどのようなプログラムが最適かなど、新たなチャネル開発のための課題が山積していた。



企業研修用プログラムをターゲットのニーズに合わせてどう再構築・提案するかが課題であった

② 専門家とのマッチング

理念に共感する専門家と連携。 教育分野の専門家の知見も活用

申請時に理念や方向性を説明し、共感してもらえる専門家を希望。課題の洗い出しや事業の構造化を得意とする中山聖子氏とのマッチングが実現した。加えて、プログラム視察の際には教育に知見を持つ市川寛氏も参加。市川氏は教員を務めた後、フリースクールを開校し、今では県知事が視察に訪れるほど先進的な取組として注目されている。単なるプログラムの普及ではなく、「馬と森を活かし、馬と森に活かされる社会の創造」という同団体の理想に合致した専門家との連携になった。

マッチングのポイント

- ◆事業者の理念や方向性を十分に理解した上で、適切な専門家をマッチングする(→P8)

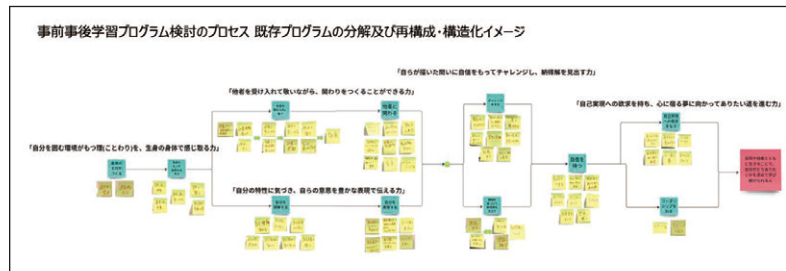
専門家 Profile

ラシック合同会社 代表
中山 聖子氏

中小企業の人材育成・マネジメントや、製造業の業務改善、人事評価制度の導入・運用に関する各種研修の実施など、組織開発を主としたサポートを行う。キャリアコーディネーターの認定資格を保有。

プログラムの詰め込み過ぎ問題が視察を通して明らかになる

専門家の視察を通じて、プログラムに内容を詰め込み過ぎており、初めて参加する人が消化不良を起こしている可能性が浮上し、内容の取捨選択が課題の一つと判明した。今後の運用も見据え、既存のプログラムに組み込まれた要素やロジックをひもとき、対象ごとに合わせて組み替える方法を導入するための計画を策定。学校教育の探究学習への組み込みを促すため、評価方法の設定も含めた包括的なアプローチを行うことを決定した。



スタッフと専門家で意見を出し合い、ふせんにまとめていく形で、プログラムを再構成する仕組みを構築（画像はイメージ）

4 課題解決支援

旅マエ・ナカ・アトの構成で学習効果を最大化

専門家から旅マエ・旅ナカ・旅アトという考え方を教わる。旅の前後も含めた関係構築によって、来る前からワクワクする気持ちを醸成。体験後も利用者とながらを持つという考え方は、同団体の目指していることと合致していたため、SDGs系の教育旅行を受け入れる際に実践した。事前に生徒からの質問を集め、終了後には生徒からの質問への回答も含めた資料を提供するという一連の流れを試みた。

学習効果の評価手法導入で教育現場との共通言語を獲得

学校教育の探究学習への組み込みを促進するため、プログラムの効果を可視化する評価手法の開発にも着手。教育現場で一般的に使用されている評価方法（ルーブリック）を取り入れることで、教育委員会や学校との共通言語が整備され、具体的な協議が可能となった。また、旅行会社など外部のステークホルダーの開拓も開始し、中長期的な連携が可能なチャンネルづくりにも取り組んでいる。

体験のリフレクション		
<p>「馬とのコミュニケーションワーク」からの気づきを、自分の言葉で書いてみましょう。</p> <p>* 質問文をよく読み、自分の心に問いかけてみてください。 * 正解があるわけではありません。ぜひみなさん自身の心の声に耳を傾けてください。 * このワークシートは回収しません。ぜひみなさんのメモとしてお持ち帰りください。</p> <p>名前： _____</p>		
1	2	3
リーダーとして、どのような気持ちで取り組みましたか？	リーダーとして取り組みながら、どのような気持ちでしたか？	リーダーとしての取り組みを終えて、どのように感じましたか？
4	5	<全体の感想>
相手(馬)は取り組みながら、どのような気持ちだったと思いますか？	相手(馬)は取り組みを終えて、リーダーとしての私をどのように感じていたと思いますか？	

研修前後もメールや資料を活用してコミュニケーションを図り、学びを深める工程をサポート

5 支援への評価と新たな課題

全員参加による情報共有と馬との関係構築手法の応用にトライ

伝言ゲームで情報がゆがむのを避けるため、スタッフ全員が一次情報として専門家の話を聞くようにした。普段、馬との交流では問い（仮説）を立てながら関係を築いているが、それを人間同士のコミュニケーションにも応用できることを、専門家との話し合いの中で発見。プログラムの中でも適切な問いを提示することで学びを深められると分かった。今後は地域の学生を対象としたプログラムのモデル実施を進め、評価方法を含めた仮説検証を行い、ブラッシュアップを継続していく。



ラシック合同会社 代表 中山 聖子氏

多様な機関との連携・共通言語の構築が今後のプログラム発展の鍵

馬との関係づくりや森との関わり方が、人にとって濃い学びになるという点を、従来の取組から丁寧に練り上げ、同時にご自身たちの思いも深めてきたことに、美馬森 Japanさんの素晴らしいと感じました。そうした濃さ、深さを教育に落とし込む際に、どのような学びがデザインできるのか。多くの要素を一つずつときほぐし、学校や教育旅行の業界の方々との共通言語を増やすことができれば、今後、さまざまなメニューを彼らとの協働で一緒につくり込み、発展させる道筋も見えてくるのではないのでしょうか。馬や森との共生が、教育をつくる共創に発展することを期待します。

専門家
Comment